

2年生 成果と課題

本単元は、生活科の内容の(7)野菜の栽培活動を通して、「野菜は生命をもっていることや成長していることに気付くこと」「野菜への親しみをもち、大切にすることができるようにすること」を目指し、本校の研究主題である「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」の視点から授業改善を行った。1学期の栽培活動では受け身になりがちだったことから、「主体的な学び」に重点を置いて取り組んだ。そこで、場づくりを工夫したり、伝え合い交流する活動、振り返り表現する機会を大切にしたりしながら、主体的・対話的な学びの実現に向けて学習を進めた。

【成果】

成果としては以下の2点があげられる。

1つ目に、子どもたちが意欲的に学習に取り組むことができたことである。本単元が始まる前から、学年園の状態に目を向けさせたり、野菜についての本や図鑑などを手に取りやすい環境を整えたりするなどの場づくりを大切にしたりした。また、野菜名人さんから野菜作りについて教えていただいたり、たねまきの様子を見せていただいたりした。子どもたちが興味をもつような工夫をすることで、野菜への関心が高まり、意欲的に学習に取り組んでいた。子どもたちは毎朝野菜を観察し、「今日も行ってきたよ。」「ちょっと元気がない。」「本当に水はあげなくていいの?」と見たことや感じたことを伝え合う姿が見られた。現時点では、栽培活動の途中であり、子どもたちが積極的に活動できるように継続して指導していきたい。

2つ目に、友だちの話を一生懸命に聞こうとしていたことである。ゴールへの見通しをもたせることで、自分の思いや願いが高まりそれと共に、友だちの思いや願いにも耳を傾けたり共感したりすることができた。生活体験や考えたり感じたりしたことを伝え合う場面では、話している人の方に体を向けて話を聞いていた。声が小さな友だちが発表する時には気を付けて耳を傾けていた。小グループでの話し合いや、みんなに向けて話すことを繰り返し行うことで、子どもたちが友だちの意見を聞くことができるようになってきた。

【課題】

課題としては以下の2点があげられる。

1つ目に、野菜の選定が難しいことである。冬に育てられる野菜の数は限定される。その上、育てにくいものが多い。そのため、学年園の野菜の発育がうまくいかず枯れてしまうものがあった。子どもたちにとってはどうして枯れてしまったのかを考えさせる機会となったが、野菜名人に教えていただきながら自分たちで植えた野菜が枯れてしまったことが残念そうであった。

2つ目に、野菜を観察しやすい環境を整えることである。学校の構造上、学年園と個人の鉢の場所を遠くに設置したことで、朝の時間でどちらも観察することができない子どもたちがいた。子どもたちがいつでも自由に観察できるように環境を工夫する必要があった。

